

令和4年版出題基準準拠

歯科衛生士国家試験

ポイントチエツク

5

■ 歯科予防処置論

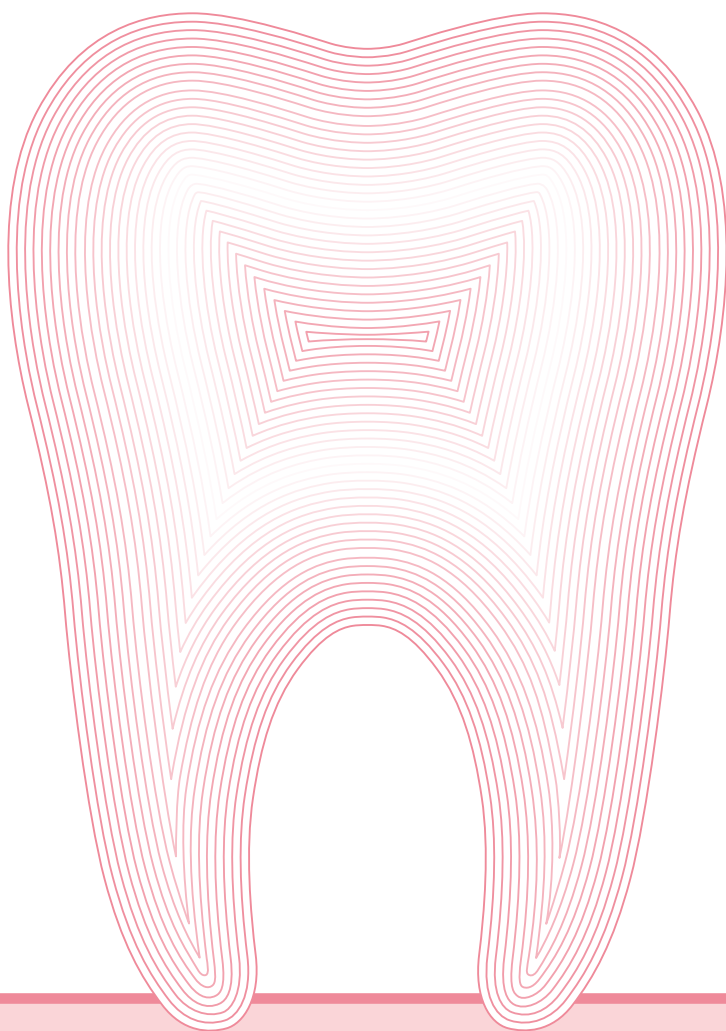
■ 歯科保健指導論

■ 歯科診療補助論

編

歯科衛生士

国家試験対策検討会



医歯薬出版株式会社

本書の特徴および利用方法

本書は歯科衛生士国家試験の受験準備，ならびに校内試験対策や授業内容の整理のためにも利用できるように，各科目の内容を簡潔にまとめたものです。本書を効率よく利用していただくために，以下に特徴と効果的な利用方法を列記します。

1. 各科目の要点——SECTION

- ① 各 SECTION は，“歯科衛生士国家試験出題基準（令和 4 年版）”の項目をすべて含み，“歯科衛生学教育コア・カリキュラム—教育内容ガイドライン—改訂版”を加味している。したがって，学校で学習する各科目の範囲全体もカバーしている。また，国家試験に出題される分野を，むだなく系統的に学ぶことができる。
- ② 出題傾向や重要度を考え，各科目の重要語をカラーで表示してある。
- ③ 同義語は，適宜（ ）内に示した。
- ④ 用語は，「歯科衛生学シリーズ」，文部科学省の「学術用語集」および学会の用語を総合して統一するようにしてある。

■ 効果的な利用方法

校内試験などの際，授業で学んだことを復習するのに役立ちます。また，短時間で全体を把握するのにも適し，国家試験直前の勉強に活用できます。また，カラーで示された重要語を隠して暗記するのもよいでしょう。

2. 過去に出題された国家試験問題の収載

- ① 各 SECTION に関連する過去に出題された国家試験問題および解答を付した。
- ② なるべく直近の国家試験問題を収載した。

■ 効果的な利用方法

空いているスペースを利用して，本書に収載されている以外の国家試験問題を自分で付け加えていくことで，どこを重点的に学習すればよいかわかるでしょう。

また，過去の国家試験問題の解説については，『徹底分析！年度別歯科衛生士国家試験問題集』（医歯薬出版）を参照してください。

SECTION

4

プラークコントロール

歯周病は**口腔細菌**、**宿主**、**環境**の3つが、また、う蝕は**口腔細菌**、**醗酵性糖質**、**宿主**の3つが基本的要因としてあげられる。直接原因である歯面に付着したプラーク、すなわち口腔細菌を口腔清掃により除去し、再付着を防ぐことは歯周病およびう蝕予防の基本となる。

プラークコントロールの種類を表1-5に示す。また、口腔清掃の種類については『ポイントチェック②』を参照のこと。

I 歯周病予防

1. セルフケア

患者自身が行う口腔清掃法であり、歯周病予防の主体となる。手用歯ブラシや電動歯ブラシを用いた**ブラッシング**、デンタルフロスや歯間ブラシを用いた**歯間部清掃**などさまざまなものがある。対象者に適した道具の選択や正しく磨けるよう、**ブラッシング指導 (TBI: Tooth Brushing Instruction)**が必要である。

また、**化学的清掃法**では薬剤を添加した歯磨剤や洗口剤を用いてプラークの形成抑制や病原性の減弱、歯石沈着の抑制の効果を得る。しかしバイオフィームであるプラークに薬剤が浸透するのは難しく、化学的清掃法のみでプラークを除去することは不可能であるため、**機械的清**

掃法の補助的な役割を担うものとして考える。

2. プロフェッショナルケア

セルフケアでは除去しきれない歯肉縁上・縁下のプラークコントロールを専門家である歯科医師や歯科衛生士が行う。歯肉縁上プラークのコントロールとしては**術者磨き**や**PMTC**、**スケーリング**などがあげられる。なお、スケーリングは、プラークの蓄積因子(**プラークリテンションファクター**)の1つである歯石とともに表面に付着したプラークも除去する。歯肉縁下プラークのコントロールとしては**ルートプレーニング**や**イリゲーション**などがあげられる。

II う蝕予防

1. セルフケア

歯周病と同様、ブラッシングや歯間部清掃などの毎日家庭内で行う**機械的清掃**がう蝕予防においても主体となる。

2. プロフェッショナルケア

スケーリングやPMTCなど、歯肉縁上および歯肉縁下(1~3mm)のプラークを専門家により機械的に取り除く。

表 1-5 プラークコントロールの種類

名 称		対象物	使用器具
セルフケア		プラーク	セルフケア器具
プロフェッショナルケア	術者磨き	プラーク	セルフケア器具
	PMTC	プラーク	機械的清掃用具
	スケーリング	歯石, プラーク	手用スケーラー エアスケーラー 超音波スケーラー
	ルートプレーニング	病的セメント質や象牙質	手用スケーラー

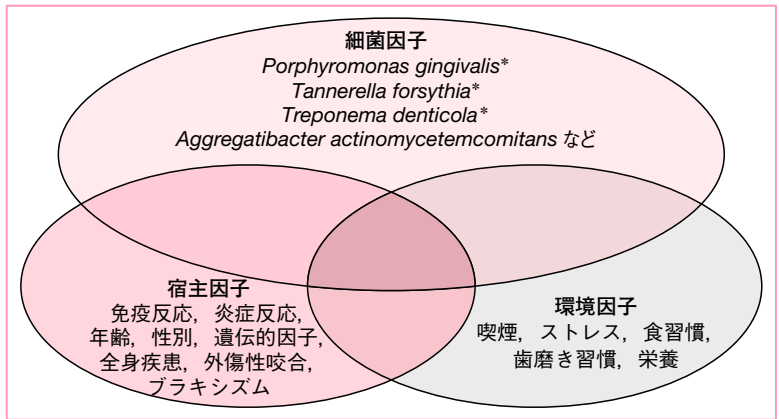


図 2-1 歯周病のリスクファクター

歯周病のリスクファクターは細菌因子, 宿主因子, 環境因子の 3 つに分類される。
 *は歯周炎の発症・進行に密接に関連する細菌群として Red Complex (レッドコンプレックス) といわれる (詳細は, 『ポイントチェック③』を参照)。

本歯周病学会に基づいた分類を用いる (表 2-3)。2018 年の新国際分類については, 「ポイントチェック③」を参照のこと。

IV 歯周病のリスクファクター

歯周病のリスクファクターとして考えられている細菌因子, 宿主因子, 環境因子などが関連しあって, 歯周病を発症・進行させる (図 2-1)。

国試に出題されています!

問 歯周病のリスクファクターを図に示す。

① 歯周病原性細菌

② 栄養・ストレス 歯磨き習慣

③ 年齢・性別 炎症反応

③に分類されるのはどれか。1つ選べ。
 (第 31 回/2022 年)

a 学歴
 b 喫煙
 c 食習慣
 d 糖尿病

答 d

SECTION

3

直接修復

I 直接修復の器材準備と取扱い

1. 材料・充填用器具の準備 (表 3-5)

- 1) 光重合型コンポジットレジン修復
- 2) グラスアイオノマーセメント修復

2. コンポジットレジンの接着システム

1) 接着の基礎 (図 3-12)

(1) エッチング (酸処理)

歯質を脱灰する効果を発揮する酸性溶液などを用いて、歯面を処理することである。エッチングに用いる材料のことをエッチング材、ある

いはエッチャントといい、エナメル質には 30～40%リン酸溶液が、象牙質にはリン酸水溶液以外にクエン酸水溶液や EDTA が用いられる。

(2) プライミング

接着補助材 (プライマー) を用いて象牙質表面に存在するスミア層を除去し、歯質の性状を接着に適した状態に改質することである。ボンディング材を併用することで接着性を獲得する。

(3) ボンディング

エッチングあるいはプライミング処理された歯面に、接着性モノマーなどを含有した液状レジンのボンディング材を塗布することである。

表 3-5 直接修復法の手順と器材準備

診療の手順	使用器材	
	光重合型コンポジットレジン修復	グラスアイオノマーセメント修復
①シェードテイキング (色合わせ)	シェードガイド	
②ラバーダム防湿	ラバーダム防湿用器材一式	
③歯間分離	歯間分離器具	
④窩洞形成	ダイヤモンドポイント、カーバイドバー、ラウンドバー、う蝕検知液	
⑤窩洞清掃		
⑥歯髄保護	覆髄薬、裏層材、裏層器 (アプリーケーター)	
⑦隔壁の調整	隔壁装着用器材一式	
⑧接着前処理	プライマー、ボンディング材、マイクロブラシ、照射器、シールド (遮光版)	デンティンコンディショナー、プライマー、マイクロブラシ、照射器、シールド (遮光版)
⑨填塞・賦形	レジンペースト、レジン充填器、シリンジ、照射器、シールド	グラスアイオノマーセメント、レジン充填器、照射器、シールド、ビニールバーニッシュ
⑩隔壁除去		
⑪隣接面余剰部の除去	形態修正用ダイヤモンドポイント、仕上げ用カーバイドバー、各種研磨用ストリップス	
⑫歯間分離器、ラバーダム防湿の除去		
⑬唇面舌面の余剰部の除去	形態修正用ダイヤモンドポイント、仕上げ用カーバイドバー、咬合紙、咬合紙ホルダー	
⑭仕上げ研磨 (次回来院時: 24 時間以降)	ホワイティングポイント、シリコンポイント、各種研磨用ストリップス・ディスク	

表 3-6 修復材別研磨器具

修復材	研磨器材	注意事項
光重合型コンポジットレジン	ホワイポイント マンドレール 研磨用ディスク プラスチックストリップス	24時間以降に研磨を行う。製品によって注水を必要とするものとするのでないものがある。
ガラスイオノマーセメント	超微粒子ダイヤモンドポイント シリコンポイント ホワイポイント ラバーカップ プラスチックストリップス マンドレール 研磨用ディスク ビニールバーニッシュ	24時間以降に研磨を行う。注水下で発熱させないように注意する。再度バーニッシュを塗布する。

で行う。

(4) オールインワンアドヒーズシステム

ワンステップシステムともよばれ、エッチング、プライミング、ボンディングを1回の処理で行う。

3. 光照射器の取扱い

1) 光照射器の光源による分類

- (1) LED 光源照射器
- (2) ハロゲン照射器
- (3) キセノン照射器

2) 使用時の注意

- ・術者、補助者、患者ともに防護鏡や防護板を使用し、強い光から眼を保護する。
- ・光強度の低下を防ぐためにチップの清掃や損傷のチェックを心がける。
- ・所定の光源が得られているかチェッカーなどを用いて確認する。

4. 研磨

1) 目的

- (1) 解剖学的形態を再現する。
- (2) 歯質と修復物の移行部を円滑にする。
- (3) プラークの停滞を防ぎ二次う蝕を予防する。
- (4) 修復物に光沢を与え審美性を回復する。

2) 研磨用器具

修復材別研磨器具を表 3-6 に示す。

II 治療後の注意

1. 患者指導

1) 処置内容の確認

部位、咬合状態、色調など

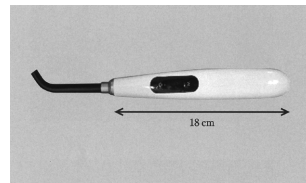
2) 口腔管理について

ホームケア、定期的メンテナンス、再研磨の必要性、知覚過敏など



国試に出題されています！

問 光重合型コンポジットレジン修復に用いる光照射器の写真を示す。



ハロゲンランプと比較して、本照射器の特徴はどれか。2つ選べ。(第30回/2021年)

- a 出力が小さい。
- b 光源寿命が長い。
- c 小型軽量である。
- d 消費電力は大きい。

答 b, c